

- * パウロのテサロニケの信徒に対する祈り第2弾。二つの祈りの一つ目。
「どうか父が、その栄光の豊かさに従い、御霊により、力をもって、あなたがたの内なる人を強くしてくださいますように。こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでいてくださいますように。」（エペソ3:16～17）私たちの肉体である「外なる人」（Ⅱコリント4：16）に対して「内なる人」は、精神というより「霊魂」。全人格の最も深い部分である。それは、「御霊により」「神の力により」強められる。聖霊が私を励まし、弱い部分を補い、神の望まれる方向に変えてくださるのである。また、信仰によって私たちの心の内にキリストが住んでくださることによって内なる人は強められる。聖霊はキリストと一つなので、聖霊が住むこととキリストが住むこととは同じことである。
- * 二つ目の祈り。「また、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができるようになり。」（3：17～19）クリスチャンの生き方の基礎は「愛」である。私たちは愛に基礎を置いて生きているだろうか。神の愛は、見返りを求めない無償の愛、無限で普遍の愛。そして犠牲の愛。神が御子イエスを遣わして十字架にかけ、その血によって罪の赦しを受けるといふ愛は、計り知れない大きさである。神がそのような愛で私たちを愛してくださったことを知らなければならない。また、私たちはその愛に応答して生きることが求められている。神を愛する者は人をも愛して生きることが求められている。
- * しかし、私たちの現実は今から程遠いものとなっている。神の愛から離れ、自分勝手な方向に走っていないだろうか。パウロはそんな現実を知って執り成しの祈りをエペソ人に行っているのである。「愛を知る」ことは、言葉の上だけではなく、実際に体験して、心から感謝するまでになることである。私たちの人生でキリストの愛が迫ってくるほどの体験をしたとき、愛に生きることが実感としてわいてくる。また、日常の小さなことでも、積み重なっていけば、愛の体験をし、神の愛を知ることができる。
- * 「神ご自身の満ち満ちたさまにまで満たされるように」（3：19）これは、上記の二つの祈りが答えられたときに、結果として得られるものである。キリストの姿に少しでも近づき、キリストの香りを放つものになりたい。